

第4回 公共交通検討幹事会 議 事 要 旨

1 日時 令和4年11月8日（火）14時00分～15時30分

2 場所 いわき市文化センター2階 中会議室

3 出席者

No	区 分	所 属	氏名	出欠
1	一般旅客自動車 運送事業者等	一般社団法人 福島県タクシー協会 いわき支部 支部長	ヨシダ ケンイチ 吉田 憲一	出席
2	一般乗合旅客自動車 運送事業者	新常磐交通株式会社 常務取締役	モンマ マコト 門馬 誠	代理出席
3	鉄道事業者	東日本旅客鉄道株式会社水戸支社 企画室長	オガワ イクオ 小川 郁夫	出席
4	国	国土交通省東北運輸局福島運輸支局 首席運輸企画専門官	ササキ ユタカ 佐々木 由隆	欠席
5	県	福島県いわき地方振興局 県民生活課長	ナリタ ミノル 成田 稔	出席
6	市	いわき市総合政策部 スマート社会推進課長	マツモト ユウジロウ 松本 雄二郎	出席
7		いわき市文化スポーツ室・観光交流室 観光交流課長	ニシヤマ アツシ 西山 敦	出席
8		いわき市都市建設部 都市計画課長	コバヤシ シゲノリ 小林 重則	出席
9		いわき市都市建設部 総合交通対策担当課長	ワタナベ スナオ 渡邊 直	出席
アドバイザー				
1	学識経験者	独立行政法人国立高等専門学校機構 福島工業高等専門学校 ビジネスコミュニケーション学科 教授	アクタガワカズノリ 芥川 一則	欠席
2	学識経験者	福島大学 経済経営学類 准教授	ヨシダ イツキ 吉田 樹	欠席

- ・ 事務局：いわき市都市建設部都市計画課総合交通対策担当
- ・ 幹事長：いわき市都市建設部都市計画課総合交通対策担当課長 渡邊 直

4 概要

- (1) 開会
司会による開会の宣言
- (2) 委員紹介
司会から委員の紹介
- (3) 幹事長あいさつ
幹事長の渡邊委員による挨拶
- (4) 協議
(1) いわき市地域公共交通計画（素案）について
- (5) その他
- (6) 閉会

5 配布資料

次第

出席者名簿

資料－1：説明資料（第4回公共交通検討幹事会資料）

参考資料：いわき市地域公共交通計画（素案）

別紙 1：公共交通検討幹事会要領

別紙 2：意見照会様式

6 委員からの主な意見と事務局の考え（要旨）

○：委員 ➡：事務局

(1) いわき市地域公共交通計画（素案）について

- 基本目標Ⅲの新技术等を活用した移動サポート内にて自動運転車両の導入とあるが、計画期間の5年間で自動運転車両の導入は可能か。
 - ➡ 自動運転車両については、技術的には進んできているが、実装までには時間を要することが見込まれるため、導入に向けた検討に修正したい。

- 基本目標Ⅰに関するKPI（目標値）の一つに鉄道利用者数の増加を掲げているが、コロナ禍による生活様式の変化や在宅勤務の増加、さらには、人口減少による影響など厳しい状況にあると考えられる。そのような中でも利用者の増加を達成するためには、定住促進等の取組みが必要となるが、市ではどのように取り組んでいるのか。
 - ➡ 目標値については、人口減少等による利用者の減少傾向を踏まえた将来利用者を推計した。また、現状値は、コロナウイルス感染症拡大の影響により、大きく利用者が減少している現状を示している。
定住促進等の取組みについては、市立地適正化計画等のまちづくりに関する計画においても、都市拠点の人口密度を維持するため、コンパクトなまちづくりを掲げており、中心地に生活に必要な施設の整備し、その周辺に居住を誘導していくこととして、各種施策を展開している。
- 利用者を増やすことを目標とすること自体は問題ないが、鉄道利用を促進するためには、路線バス、タクシー等の2次交通の利便性向上も重要であると考えられる。
- 路線バスに関しても利用者の増加を掲げていることから、利便性の向上を図ることにより利用者を増やす取組みを進めていくことが重要と考える。

- 交通事業者や行政から得られた交通（移動）データについては、地域の交通事業者と共有するとともに、公開可能なデータについては、交通事業者以外の事業者等にもデータを公開することで公共交通の利便性の向上が図られるものとする。
若いひとのトレンドもクルマを持つより公共交通を利用しようと考え方に変わってきている。モビリティマネジメントの取組みも大切になってくる。

- 本市は、工業団地等も多くあることから、コロナ禍以前は首都圏から鉄道を利用して市内へ訪れるビジネスマンが非常に多かった。しかし、コロナ禍による生活様式の変化から、現在は大幅に減少している状況にある。
いわき市では観光に力を入れていることから、新しい移動需要も考えられる。今後は、これらの需要を取り込むことも重要だと思ふ。

以上